

近年、日本各地で大きな自然災害が多発しており、乙訓地域に於いても、災害支援活動を自発的に取り組む必要があります。具体的には、社会活動の一環として、地域の方々と共に協力して災害時に於ける広域的な協力体制の構築を図る必要があります。また、市民が防災や減災に向き合う事から地域交流が始まります。そして、そこから生まれる人との信頼、思いやりや互いに助け合う精神が、共生社会を創出するきっかけになります。日頃から災害が起こり得る事を想定し、地域ネットワークを活かした迅速な伝達や適切な対応が出来る環境を創出し、災害支援対策に向けた取り組みを行わなければなりません。今こそ、我々が先頭に立って、阪神淡路大震災の教訓をもとに自助、共助及び公助体制の強化を計り、災害ネットワークを構築し、市民が一体となって自分達の地域を守るという気概を持った活力ある地域の創出に貢献する事が必要です。

まず、乙訓青年会議所が初動体制として、災害時の運営マニュアルを作成します。また、災害時には二市一町との地域ネットワークを活かし、災害時の災害支援対策本部を設置、即座に災害支援の為の情報共有し、連絡体制の確立を目指します。そして、災害支援対策会議に於いて、防災ネットワーク会議の報告及び検証を行います。次に、災害ネットワークを拡充する仕組みをより多くの防災に関わる地域の方々にも理解して頂く為に、乙訓地域に於ける防災や減災に関わる行政機関との連携の確立を目指します。その結果、災害時にも、共に力を合わせて活動し、立ち向かえる体制が整います。JC災害ネットワークと地域ネットワークを活かし、災害時の支援対策本部を設置する事で、即座に災害支援に対応出来る情報の共有が可能な連絡体制の構築を目指します。

重要な事は、世代を越え周りの人々と互いに支え合う心を育む事です。過去の被災からの教訓を生かし、防災や減災の意識を高めながら、相互扶助の精神と自分達の地域は自分達で守る郷土愛を育てていきます。そして、被災地の復興や被災者の支援を行う為には、全国に広がる青年会議所の災害ネットワークを活用し、京都ブロック内の各地青年会議所と連携を図り、迅速に支援を行います。市民がこの様な互いに支え合う心と郷土愛を日常の行動で示し続ける事で、過去の震災を忘れる事なく、「命を守る」「命を救う」為の努力の重要性を未来ある子ども達へ伝えていきます。

乙訓青年会議所メンバー一人ひとりが、向上心と意欲を持って主体的に行動し、普段から意識して災害の備えに取り組み、災害の際には即座に対応し助け合う事の出来る体制を構築します。また、災害後の支援に於いても、地域諸団体との連携を図り、JC災害ネットワークを積極的に活かしたボランティア活動を行います。そして、自分達の地域を自分達で守るといふ郷土愛にあふれた安心して住める乙訓創りに貢献出来る様に率先して行動して参ります。